

みなさん、こんにちは。
 「秋」と言えば、食欲の秋、芸術の秋、行楽の秋、スポーツの秋、読書の秋・・・と楽しみもいろいろとあります。
 秋の県立文化施設でも、楽しいイベントがたくさんありますので、お友達を誘って遊びに行きませんか？

県立美術館

フランスの風景

樹をめぐむ物語
 ～ローからモネ、ピサロ
 ～マティスまで～

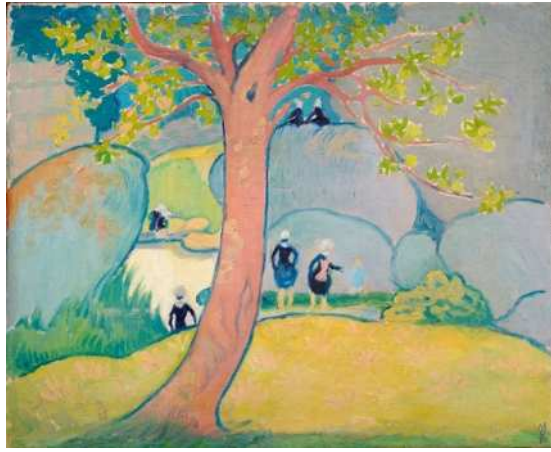


県立美術館では、「樹木」をテーマにしたフランス絵画を集めた展覧会を開催します。樹木はありふれた身近な対象として、風景を扱った絵画に多く登場します。

展示されるたくさんの絵画では、「違い」を楽しむことができます。画家それぞれの表現が個性的なだけでは無く、描かれる樹木も一本一本が個性的な姿をしています。なぜなら、樹木は、種類が同じだったとしても、樹木の年齢や生きてきた環境によって、異なる形になるからです。若い樹木、年寄りの樹木、雷などに打たれて傷を負った樹木、日当たりの良い場所に一本だけ生える樹木、暗い森の中で他の樹木に囲まれて生える樹木など、その樹木のそれまでの生活が形となって現れます。

一方で、作品たちの中に「共通点」を見つけてくれることもできるでしょう。

これは、時代ごとに画家たちに共有された描き方の共通点があるからです。自然に観察された通り再現しようとした時代、色を塗るときに、短い線や点を用いて表現する傾向が見られる時代、自然の樹木を變形して描く傾向が見られる時代など、描き方の流行は時代ごとに変わっていきます。



モーリス・ドニ 《小さなブルターニュの女性たち、沼のほとり》 個人蔵、1892年頃

展示室では、「違い」と「共通点」に注目して楽しんでいただければと思います。

開催期間 十月二十二日（土曜日）から十一月十一日（日曜日）まで

県立博物館

秋期企画展

「葡萄酒と葡萄」



山梨県はフルーツ王国といわれるほど、いろいろなくだものが栽培されています。中でもブドウは日本一の栽培面積と収穫量を誇っています。

今回の展覧会はそのブドウとブドウから作られるワインについて紹介します。



大日本物産図会 甲斐国葡萄培養図 明治時代（当館蔵）

山梨の特産物であるぶどうとワインは、人々のくらしと深く関わり、文化を生み出すものにもなってきました。

みなさんは、ぶどう作りに関わる仏さまがいるのを知っていますか？また、ワインを神さまや仏さまにお供えする習慣があるのを知っていますか？うか？これらは日本の中でも山梨だけの文化です。

ブドウの栽培は江戸時代には山梨の特産品として江戸でも知られていました。ワイン醸造は明治時代に外国に教わりに行くなど全国に先駆けて取り組んできました。

展覧会では、山梨のぶどうとワインの歴史や文化について紹介します。ワインの勉強なんて、ちょっと大人の気分も味わえそうですね。

開催期間は十月八日（土曜日）から十一月二十八日（月曜日）までです。

開催期間中の毎週日曜日午前十一時から「あそぼう！まなぼう！寺子屋ひろば」では「葡萄酒と葡萄」展に関連した子ども向け体験イベントを開催します。十月二十三日「ブドウの

のがたり」、十月三十日「はんなりふるしき包み」、十一月六日「ワインコルクでガラスアクセサリーを作ろう」、十一月十三日「甲斐名所双六」山梨の名所・名産めぐり」などです。

今年も十一月二十日（日曜日）の県民の日に「かじあむの秋祭り」を開催します。当日は大人の方も常設展・企画展ともに観覧料が無料になります。ぜひお越しください。

県立考古博物館

第三十四回特別展

「甲斐がえる武士の魂」
 ～鎌倉・平泉と甲斐源氏の
 武士文化～



今からおよそ九〇〇年前、平安時代の終わり頃に、甲斐国（現在の山梨）では後の世に「甲斐源氏」とよばれる武士の勢力が活躍を始めました。甲斐源氏はその名の通り源氏の流れをくむ名門で、その始まりは鎌倉幕府を開いたことで有名な源頼朝の高祖父（四代前）にあたる源義家の弟・義光にさかのぼります。

源義家と義光の兄弟は、当時、東



重要文化財 軒丸瓦
 やなぎのごしよいせきしゅつど
 柳之御所遺跡出土
 いわてけんきょういくいんかいぞう
 (岩手県教育委員会蔵)

北を治めていた藤原氏が栄えるきっかけとなった後三年の合戦（一〇八三～一〇八七年）に参戦し、彼らの父

源頼義が参戦した前九年の合戦（一〇五一～一〇六二年）と合わせて、源氏を中心とした武士社会が生まれる礎を築きました。



白河市指定文化財 桶無鎧 写
 かましじんじやぞう
 鹿嶋神社蔵
 しらかわしれきしんぞくりょうかんほかん
 (白河市歴史民俗資料館保管)

やがて時代がくると、源義光の子孫たちは「甲斐源氏」として甲斐国で勢力をのび、平泉（藤原氏の本拠地）や鎌倉といった文化的・政治的中心地からの影響を受けながら、歴史的に重要な戦や政治の舞台で、その実力を発揮していきます。そして、由緒正しい源氏の血筋と、時代を牽引する武士としての確かな存在感を併せ持っていた甲斐源氏の血脈と魂は、「この後、戦国の雄・武田家へと受け継がれていくことになりました。」

本展では、山梨にかつて息づいていた勇ましい武士たちの足跡を、考古学の視点から見つめ直します。開催期間は九月二十八日（水曜日）～十一月二十三日（水曜日・祝日）まで。

県立文学館

北杜夫展

「ノモアがあるのは人間だけです」



北杜夫は、一九二七（昭和二）年、東京に生まれ、今から五年前の一九一（平成二十三）年に八十四歳で亡くなった小説家です。北は、一九五

（昭和三十）年の十二月から一年間、現在の甲府市里吉にあった山梨県立精神病院に医師として勤めていました。病院では、現在のように設備が整っていない上、一人で多くの患者の世話をしなければならず、毎日いそがしく過ごしていたようです。当時の様子はエッセイ「どくとるマンボウ医局記」にユーモラスに描かれています。



北杜夫が患者さんを診察するとき使用した聴診器とかばん

「どくとるマンボウ」とは、北杜夫の別名で、「どくとる（doctor）」はドイツ語で医者、マンボウは魚の名前です。「棒で突ついたらくらいでは動じないと聞いたから、いかにも急げ者の私に似ている」と考え、この名前を付けたと言っています。展示室には北杜夫が実際に使った聴診器や大好きな昆虫の標本、高校時代の数学の答案用紙など、あまり文学館では展示されないことがない資料が並んでいます。是非見に来てください。

山梨近代人物館

第四回展示

日本の文化を興した山梨の人々



二年目を迎えた「山梨近代人物館」山梨県ゆかりの人物や県政の歴史を紹介して多くの皆さんに親しんでいただいています。

第四回展示は「日本の文化を興した山梨の人々」がテーマです。武士が活躍した江戸時代が終わり、「文明開化」と呼ばれた明治時代が始まります。

外国から様々な文化や物が入ってくるとともに、日本の社会や大きく変化していく中で、新たな日本が求める文化をつくりあげた山梨県にゆかりのある人々を紹介しています。

五千円札の顔としても親しまれた「樋口一葉」や、甲府でビールを造り東日本で最初に国産のビールを販売した「野口正章」。近代日本を代表する俳人の「飯田蛇笏」や、山梨や日本の風景を彩り豊かに描いた水墨画家の「近藤浩一」など。

山梨近代人物館には、知らないことや知りたいことがたくさんあつまっています。



「子ども向けクイズ」と「子ども向けクイズ」

また、館内には、プロジェクトジョン マッピング「笹子隧道物語」やタッチパネルで答えるクイズなどもあります。楽しいクイズで、たくさんの人物と出会つことができます。山梨近代人物館は、開館時間中は、いつでも無料で観覧できます。

また、団体予約も受け付けています。詳しくは、電話でお問い合わせください。電話は、〇五五・二二一・〇九八八です。

県立科学館 サイエンス旬 巡回パネル展 『人といきものつながり』 生物多様性って…なんだろう？

地球上では、動物や植物など多種多様な生物が存在し、その恩恵を受けて私たちの生活は、成り立っています。しかし、近年、地球環境の微妙なバランスが崩れています。本展では、人と生き物のつながりについてゲームを通して学んだり、国際協力機構（JICA）の環境保全活動などを紹介していきます。併せて、愛宕山少年自然の家で自然観察会を行っている里山くらぶの活動から愛宕山の環境変化にも迫ります。

サイエンス旬 巡回パネル展 人といきものつながり 生物多様性って…なんだろう？

開催期間は、十一月二十六日（土曜日）から十二月十八日（日曜日）までです。

入館料のみでどなたでもご覧いただけます。多くの方のご来館をお待ちしています。

また、関連イベントとして、十二月

四日（日曜日）にはギャラリートーク「うえちゃんのおきてみなくちゃわかんない」いきものふしぎバージョン、十一月十一日（日曜日）にはワークショップ「多様性ふしぎたいけんラボ！」を開催します。詳しくは、県立科学館ホームページをご覧ください。直接お問い合わせください。電話は、〇五五・二五四・八一五一です。

県立図書館 贈りたい本大賞 受賞作展示

みなさんが、大切な人に一冊本をプレゼントするのなら、どんな本を、どんな理由で選びますか？ 県立図書館では、今年も「贈りたい本大賞」大切な人に贈りたい一冊を募集し、たくさんの方から応募いただきました。十一月十一日（金曜日）には、この中から選ばれた大賞作品と、優秀作品の表彰式が行われます。これに合わせて、県立図書館では、二階の情報サテライトで、「贈りたい本大賞受賞作展示」を行います。受賞作品を、実際に手に取って読んでみませんか。みなさんも、大切な人に贈りたくなる本がきつと見つかるはずですよ。



さくねん せんじ ようす 昨年の展示の様子

開催期間は、十一月五日（土曜日）から十一月二十九日（火曜日）までです。月曜日はお休みします。観覧料は無料です。

先生方へ 「博学連携のお知らせ」 美術館、博物館、考古博物館（埋蔵文化財センター）、文学館、科学館、

美術館、博物館、考古博物館（埋蔵文化財センター）、文学館、科学館では、教育プログラムの開設や出前授業、貸出教材など各館の特色を生かした教育普及事業を実施しています。詳細は各館担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

- 県立美術館 学芸課 電話 五五・二二八・三二五八
- 県立博物館 企画交流課 電話 五五・二六一・二六三一
- 県立考古博物館 学芸課 電話 五五・二六六・三八八一
- 埋蔵文化財センター 電話 五五・二六六・三一六
- 県立文学館 学芸課 電話 五五・二三五・八八
- 県立科学館 電話 〇五五・二五四・八一五一

第一号を発行した平成二十五年は、本県で国民文化祭の開催や富士山世界遺産登録があり、これを契機に児童・生徒の文化や、芸術への関心が年々高まってきていると思われまます。これからも県立文化施設の情報を提供していきますので、学校現場におかれましては、各施設を積極的に活用していただければ幸いです。

美術館、博物館、考古博物館、文学館では、小・中・高・特別支援学校の児童・生徒は、常設展・特別（企画）展を無料で観覧できます。